

FASHION & BEAUTY PATROL

ファッションとビューティにまつわるワクワクをパトロール!遊び心あふれるカタチでお届けします



杉山浩章／シダスジャパン社長

PROFILE:日本フットウェア技術協会理事。1989年からシダスに参画し、2010年にシダスジャパンを設立。現在、年間150人ほどのトップアスリートのインソールを自ら作成している

記者が
カスタムインソールを作つてみました!

杉山社長はカスタムインソールの技術者としても超一流。まずは素材を専用の機械で温めて成形しやすくする

ある程度成形したインソールを足の模型に合わせてフィット感を確認

2 ブルーマットに足を乗せて足型をとる。マットの感触は柔らかい粘土のよう

3

4

SIDAS JAPAN

シダスジャパン

社長は“インソール界の生き字引”

「シダス」は、1975年にフランスで生まれたグローバルなインソール(中敷き)ブランド。日本に初上陸した82年から販売に携わり、以来約30年間、インソール一筋に人生をささげてきたのが杉山浩章シダスジャパン社長だ。「スキーブーツを足にフィットさせるためにインナーブーツを履いていた時代、インナーブーツではカバーしきれない足裏にフィットさせるツールとしてインソールが生まれた。以来、自転車やゴルフなどさまざまなスポーツに広がり、95年くらいからスポーツ用品店などで手軽に購入できるようになった」と話す。

最近のコロナ禍においては、密にならない運動としてランニングをする人が増え、売り上げを伸ばしている。「これまで走ってこなかった人が急に走り始めると、思った以上に足に負担がかかり、インソールを求めるケースが増えている。また“インソールをシューズにする”という発想から生まれた“バルク”という商品が、リモートワーカーを中心に人気だ。いわゆる室内履きで、「自宅でも仕事時間には靴を履いて切り替える」とか、「自宅にいる時間が長くなると姿勢が悪くなるので、インソールで姿勢を正したい」と考える人が購入している。インソールはパフォーマンスを上げたいダンサーも多く愛用しているので、最近発足したダンスのプロリーグ“Dリーグ”的盛り上がりに期待している」。同社のツイッターでは社員が室内履きの“バルク”を履いて踊る動画を公開しているが、その微妙な仕上がりに「楽しそうな企業!」と温かい声が相次いでいる。

インソールには“姿勢を正す”効果も期待できるため、「室内でもインソールを履きたい」というニーズに応えた“バルク”(税込1万110円～)。“室内履き”というワードも話題

PRODUCTS

NEW

高機能インソールを初めて使う人にも最適

4月に発売した新商品。スポーツやランニングをはじめ、足の痛みが気になる人に向けたインソール“マックスプロテクト・ラン”(税込2530円)

外反母趾の疑いがあると分かり…



制作の途中で記者の足がヤバいことが発覚。専用の測定機で足の状態をチェックし、杉山社長の熱いレクチャーを受けることに……

TOPIC



衝撃のダンス動画がツイッターに!

シダスジャパンの公式ツイッターには、“ダンスチャレンジプロジェクト!”として、社員がインソールの入った“バルク”を履いて踊っている動画が……。ハッシュタグは「#カメラマンは社長」「#ダンス初心者」など。初心者なのも目で分かります。

ファッション&ビューティ業界を裏から支えるニッチビジネスをリポート!

ファッション&ビューティ業界を支えるのは、表舞台に登場する服や化粧品関連の企業だけではない。ここでは特化した生産技術を用いた“ニッチビジネス”で、業界を裏から支え続けるメーカー2社をピックアップ。コロナ禍でも売り上げを伸ばしている2社のキーパーソンに話を聞いた。(サロンビューティデスク 中村慶二郎)



松浦産業

MATSUURA SANRYO

超ニッチ! 知る人ぞ知る“取っ手”のトップ企業

松浦産業は香川県に本社がある、紙袋用“取っ手”的国内トップメーカーだ。1932年にわら縄ロープの生産からスタートし、71年からプラスチック製の紙袋用取っ手の生産を開始。安価な海外製が台頭する中、取っ手で国内初のエコマークを取得するなど、品質の高さで紙袋用取っ手は国内トップシェアを維持している。ア



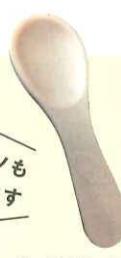
パレルやコスメのメーカーでも、紙袋に同社の取っ手を採用している企業が多く、まさに業界を裏から支える“縁の下の力持ち”だ。松浦英樹副社長は、「街で見たことのない取っ手が付いた紙袋を持った人を見かけると、ついで行ってどこの紙袋かチェック。そしてその店に行って買い物をし、大・中・小、全サイズの紙袋をもらって、どこの会社の取っ手か調べる」というほど“取っ手オタク”だ。

しかしECの台頭やレジ袋有料化の影響を受けて、紙袋用取っ手の売り上げは激減した。ところが、エコや過剰包装を避ける流れから、タックハンドル

(ダンボール箱などに直接貼るシールタイプの取っ手)の売り上げが急増。大手ファストファッションも同社のタックハンドルを採用した。「紙袋用取っ手からタックハンドルへ、という動きは、世の中の流れやムードを反映している。また、

取っ手を高価なタイプに変える企業は売り上げ好調、逆は売り上げ不調であるケースが多く、取っ手からは“日本経済”が見えてくるよう面白い!。

こんなモノも作ってます



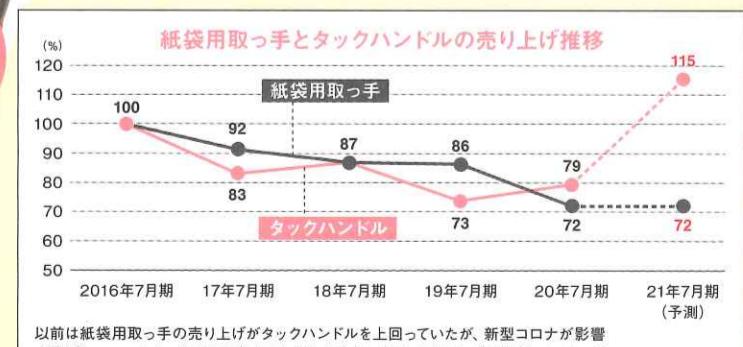
取っ手で培ったプラスチックの成形技術を生かし、化粧品のスパチュラなども製作。写真はマンダムで採用したもの

“取っ手”的売れ行きを見れば日本経済が分かれます!



松浦英樹／松浦産業 副社長

PROFILE:取っ手で国内初のエコマークを取得したり、他社に先駆けて生分解性の素材を取り入れたり、時流に合わせた取り組みを積極的に推進。取っ手に関するうんちくを語ると止まらない



有料会員はいち早く情報をキャッチアップできる限定記事が読み放題!

編集発行 WWDJAPAN 株式会社 INFAS パブリケーションズ 〒106-0032 東京都港区六本木6-1-24 ラビロス六本木4階 Tel: (03)5786-0621 E-mail: wwd-j@infaspub.co.jp 本紙の記事・イラスト等の無断転載を固く禁じます。Published by INFAS PUBLICATIONS, INC. Lapiross Roppongi 4F, 6-1-24 Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-0032 Japan Tel: (03)5786-0621 E-mail: wwd-j@infaspub.co.jp Copyright©2021 INFAS PUBLICATIONS, INC. All rights reserved. WWDJAPAN® contains material reprinted by permission from WWD®. Copyright©2021 FAIRCHILD PUBLISHING, LLC. All rights reserved.

